

2002年度 Block. 5

課題 N.O. 4

「カゼは万病のもと」



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意下さい。

2002-B5-4

カゼは万病のもと

## シート1

中馬さんは、コンピューター関連の営業をしている33才の男性です。職場健診の1ヶ月前から咳、鼻水や微熱があり、近医でカゼ薬をもらっていました。カゼ薬を内服している間は、症状は軽くなります。

【抽出を期待する事項】(裏) 血痰の目、喉頭の咽頭・喉頭にさち  
カゼ症状（咳、鼻水、微熱）

カゼ薬

解熱剤（非ステロイド抗炎症薬）

対症療法

【裏面の斜線を出紙】  
(CTT) 咳痰・嘔瀉常異常  
検査部位  
長鼻  
喉頭  
血痰の目  
声調

2005-B5-4  
さきの歴史おせ

2000-B5-4  
カゼは万病のもと

## シート 2

ところが職場健診時に胸部レントゲンで右上肺野に異常陰影（資料1）を指摘され、入院精査をうけました。胸部CT検査では写真（資料2）の像がみられました。喀痰検査では異常所見はありません。そこでCT下肺生検をうけました。

退院後も同様症状が続き、2ヶ月頃からドロドロとした鼻汁が増え、さらに両膝・右肘の関節痛、目の充血、嗄声がでてきました。

### 【抽出を期待する事項】

肺異常陰影・肺結節影（CT上）

喀痰検査

鼻汁

関節痛

目の充血

嗄声

### シート3

CT下肺生検の組織像は「炎症性偽腫瘍」でした。つぎの外来の時に、胸部レントゲンで2つめの結節影が出現し、検査データも悪化していました。

▲外来検査所見は、

赤沈 78 mm/hr

CRP 3.2 mg/dl

血液；WBC 10,600/mm<sup>3</sup> (Stab 4%, Seg 72%, Eos 1%, Lym 18%, Mono 5%)、RBC 343 × 10<sup>4</sup>/mm<sup>3</sup>、Hb 9.6 g/dl、Ht 28.9%、Platelet 35.5 × 10<sup>4</sup>/mm<sup>3</sup>

生化学；TP 7.7 g/dl、Alb 3.3 g/dl、GOT 18 IU/l、LDH 263 IU/l、CK 46 IU/l、BUN 32 mg/dl、Cr 2.6 mg/dl、T.Chol. 136 mg/dl、TG 140 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 4.7 mEq/l、Cl 101 mEq/l、Fe 18 mg/dl、TIBC 191 mg/dl

尿検査；蛋白(3+)、潜血(3+)、糖(-)、沈渣：顆粒円柱、赤血球円柱

便検査；潜血(-)

#### 【抽出を期待する事項】

炎症反応亢進

白血球增多・血小板增多

貧血

腎機能低下

糸球体腎炎

2000-B5-4  
さめの森式おせき

2000-B5-4  
カゼは万病のもと

#### シート4

肺だけでなく腎臓も悪いので、さらに詳しく検査をしました。

#### 検査結果

免疫学的検査 ; IgG 2670 mg/dl (正常値 870~1700) 、抗核抗体40倍以下、RAHA 640倍、CH50 49.4 (正常値 29~48) 、P-ANCA 10EU以下、C-ANCA 1152 EU (正常値 10以下) 、抗糸球体基底膜抗体 10EU以下

#### 【抽出を期待する事項】

高γグロブリン血症  
C-ANCA高値  
リウマトイド因子陽性  
血管炎  
Wegener肉芽腫症

#### 【貢奉るぞ骨髄穿刺】

歯六亦又血炎  
多骨炎小血・多骨粒血白  
血負  
不透脂細胞  
炎腫肉粒炎

## カゼは万病のもと

。でもさあお宿内の不運は予は予もイーで賑騒

(対象年齢) 専門職などでは多発するが、一般市民でも

(主な年齢) 出産から6歳未満、過敏症喘息の子供、家族歴、

## シート5

(対象の特殊な年齢) 肺炎の原因が感染を引き起す。

診断確定のために、腎生検を行いました。腎組織の蛍光抗体法では陰性でしたが、病理組織では激しい変化がみられました（資料3）。

診断が確定し、ステロイドとシクロホスファミドを用いた治療が開始されました。肺陰影や腎機能所見の改善とともに、C-ANCAは低下してきました。

肺陰影内に肺間質炎を伴う葉状炎性リコテクス非-喰煙型肺病の葉状炎性リコテクス。肺間質炎は、肺の構造を形成する細胞や結合組織の炎症で、主に肺の外側にある間質で発生します。肺間質炎は、肺の構造を破壊するため、呼吸機能が障害されることがあります。また、肺間質炎は、肺の血管や神経をも攻撃する場合があります。

## 【抽出を期待する事項】

半月形形成性腎炎

血管炎症候群の治療

ステロイド

免疫抑制剤

。でもこの年齢の患者の器腫合の原因は、主として免疫抑制剤による免疫機能の低下による感染症や、免疫反応による自己免疫疾患などです。

。でもこの年齢の患者の器腫合の原因は、主として免疫抑制剤による免疫機能の低下による感染症や、免疫反応による自己免疫疾患などです。